

## JAみどりの管内で生産しているお米の品種特性

### 「ひとめぼれ」 極良食味・耐冷性極強水稻品種

#### < 来 歴 >

育成地 : 宮城県古川農業試験場

交配組合せ: 母親: 「コシヒカリ」 × 父親: 「初星」

交配年次 : 昭和56年 育成年次 : 平成3年

#### < 生い立ち >

1) 昭和55年冷害の実態から、耐冷性の向上が急務となる。翌年古川農試では新しい耐冷性検定法(恒温深水法)を開発し、既存品種の耐冷性評価の見直しを開始する。

2) 耐冷性の強い「コシヒカリ」を母本として選定し、耐冷性と食味の両立する栽培しやすい品種の開発を目指し、昭和56年「コシヒカリ」と「初星」を交配して選抜を開始する。

3) 昭和63年「東北143号」を育成し、奨励品種決定調査を開始する。その年の冷害で耐冷性の強さと食味の良さが実証され、平成3年「ひとめぼれ」と命名されデビューする。

4) 平成5年の大冷害で耐冷性の強さを発揮し、「ササニシキ」の壊滅的な被害を軽減する。この年を契機に「ひとめぼれ」の評価は急速に高まり、平成6年には「ササニシキ」に替わり全国作付け二位となる。その後も作付け地域を順調に拡大し、南は沖縄県まで普及している。現在の奨励品種採用県は21県である。

#### < 特性の概要 >

- 1) 耐冷性(冷害): 「ササニシキ(やや弱)」より強い“極強”。
- 2) 食味: 「ササニシキ」より粘りが強く、「コシヒカリ」並以上の“極良”。
- 3) 玄米品質: 「ササニシキ」に優る“極良”。
- 4) 耐倒伏性: 「ササニシキ」より強い。
- 5) 穂発芽性: 「ササニシキ」より発芽しにくい“難”
- 6) 草姿: 「ササニシキ」より穂数が少ない。丈は同程度。
- 7) 出穂・成熟期: 「ササニシキ」並の“中生の晩”。
- 8) 耐病性: いもち病抵抗性は「ササニシキ」と同程度。

## 「ササニシキ」 良食味・多収穫水稻品種

### < 来 歴 >

育成地 : 宮城県古川農業試験場

交配組合せ: 「ササシグレ」 × 「ハツニシキ」

交配年次 : 昭和28年      育成年次 : 昭和38年

### < 生い立ち >

- 1) 当時奨励されていた二毛作栽培での晩植に向けた安定多収品種の開発を目指す。
- 2) 二毛作の減少により、普通栽培用の多収穫品種に目標を変更し、昭和38年「ササニシキ」として誕生する。その後急速に普及し、当時の食糧増産に大きく貢献する。
- 3) 減反政策導入後は良質・食味米として評価され、東北地域の代表的な銘柄米となる。平成2年には「コシヒカリ」に次ぐ全国二位の20万haの作付け面積を記録する。
- 4) 平成5年冷害や倒伏・穂発芽等の度重なる被害により、収量・品質の低下を招き、作付け面積が急速に減少する。平成6年には全国作付け二位の座を「ひとめぼれ」に明け渡す。ふっくらと柔らかく飽きのこない美味しいお米として根強い人気がある。

### < 特性の概要 >

- 1) 当時の画期的な多収品種「ササシグレ」をさらに上回る多収穫品種。
- 2) 耐倒伏性・耐病性とも「ササシグレ」に優る。
- 3) 良質・良食味である。
- 4) ただし、現在のレベルでは耐冷性・耐病性・耐倒伏性とも弱く、品質も不十分である。

「まなむすめ」 耐病・耐冷・極良食味水稻品種

宮城県古川農業試験場作物育種部

< 育成のねらい >

「ササニシキ」や「ひとめぼれ」は、食味は良いが、いもち病や倒伏に弱いので、これら良食味品種の弱点を改良し、病気や冷害に強く、作りやすい品種の開発を目指した。

< 来 歴 >

育成地 : 宮城県古川農業試験場

交配組合せ: 「チヨニシキ」×「東北 143 号」(ひとめぼれ)、薬培養による育成

交配年次 : 昭和 63 年

< 栽培特性 >

- 1) 出穂期・成熟期は「ひとめぼれ」、「ササニシキ」並の“中生の晩”。
- 2) 桿長は「ひとめぼれ」より短く、穂数は少なく、草型は中間型。
- 3) 倒伏には「ひとめぼれ」より明らかに強く、収量性も優り多収。
- 4) いもち病には「ひとめぼれ」、「ササニシキ」より明らかに強い。
- 5) 耐冷性は「ひとめぼれ」に近い“極強～強”。
- 6) 玄米の外観品質、食味はともに「ひとめぼれ」並に良好。
- 7) 玄米千粒重は「ひとめぼれ」より大きい。